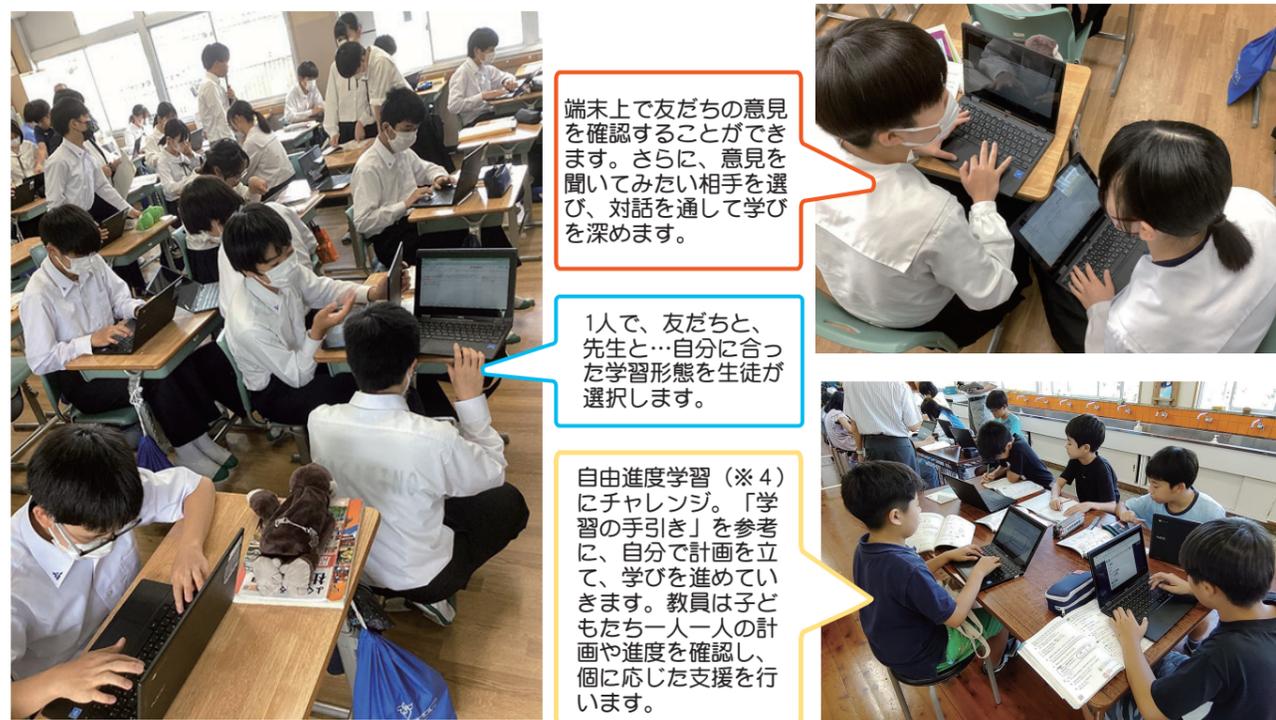


～子ども一人一人を主語にした
学びの実現へ～

今年度は、市内の5校が県の指定事業「令和の授業づくり講座」を受けて、クラウド（※1）を活用した授業づくりについて研究を進め、各校の実践を共有し、市内全校に広げています。個々に応じた学びと合わせて、学びにおける「探究のプロセス」（課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現）においても、1人1台端末（※2）を効果的に活用することで、思考を活性化させ、主体的・対話的で深い学び（※3）の実現につなげていけるよう取組を進めています。

1人1台端末とクラウドの活用により、クラス全員が一斉に同じ内容を同じペースで学習する授業から、一人ひとりの個性や理解度に合わせて、複数の学習活動が同時に展開される「複線型授業」を実践することが可能となりました。同じ教室の中に、先生に相談する子やひとりで黙々と課題に向かう子、行き詰った時に友達の意見を聞きに行く子など、子どもたち一人ひとりが、自分の課題に合った学びを、自分のペースで進めることができ、「学習の個性化」が進み、一人ひとりの学びが違って、クラウドを活用すれば、端末上で個々の子どもたちの学びの進捗が確認できるため、先生も個に応じた指導がしやすくなり、「指導の個別化」も進みます。

- （※1）クラウド：ユーザー側の環境に影響されず、インターネット上で利用可能なサービスの総称。特徴は「作業している途中でも共有できる」「後から追加や修正ができる」「追加や修正の記録が全て残る」など
- （※2）1人1台端末：文部科学省のGIGAスクール構想で、子どもたち一人ひとりに整備された学習用端末
- （※3）主体的・対話的で深い学び：知識の習得にとどまらず、児童生徒が自分で課題を見つけ、解決に向けて意見を出し合い、学びを深めること
- （※4）自由進度学習：児童生徒自身で学習計画を立て、自分のペースで学習を進める学習形態のこと



～学力調査の実施～

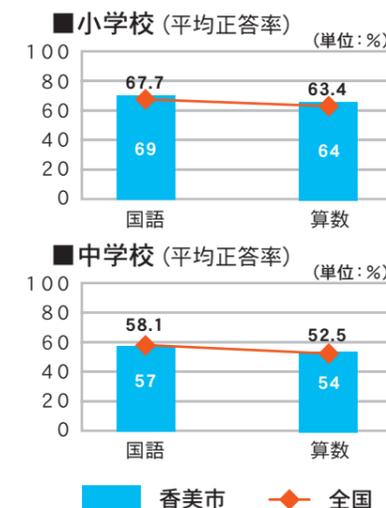
4月に「全国学力・学習状況調査」が全国一斉に実施されました。この調査は、子どもたちの学力や学習状況を把握し、学校での授業改善に活用したり、家庭などと協力して子どもたちの生活を見直す目的で行われています。

香美市教育委員会では、この結果を受け、各学校と連携して、学力向上により一層取り組んでいきます。また、この調査結果に示された香美市の子どもたちの学力の現状についてお知らせします。

全国学力・学習状況調査	
対象	小学6年生、中学3年生
教科	国語、算数・数学、英語
質問紙	学習意欲、学習方法および生活習慣等に関する事項

～調査結果～

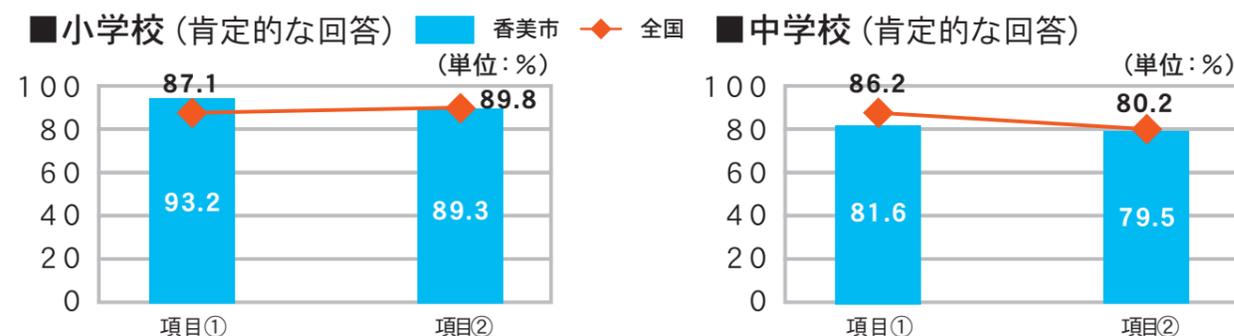
香美市の結果は右のとおりです。今後さらに授業改善を図るため、調査結果を分析し、これまでの取組の成果と課題を検証します。学校は、『P（計画）D（実行）C（評価）A（改善）サイクル』を学校全体で回しながら、授業改善に努めます。また、授業改善の取組の一環として、各校での研究に加え、各中学校区で小中学校の教員が9年間のつながりを十分に理解し、学習内容の系統性・連続性だけでなく、学びの質をともに高める研究に取り組んでいます。



～ICTの効果的な活用 意識調査より～

社会の急激な変化により、予測困難な時代と言われるこれからの時代に、力強く対応する力を育成する要となるのが、「探究的な学習」です。

この探究的な学習と親和性が高いと言われるICT端末ですが、GIGAスクール構想も4年目を迎え、端末の活用も日常化してきました。次のグラフは、児童・生徒が回答した意識調査の結果です。PC・タブレットなどのICT機器を活用することで、小学校は「友達と協力しながら学習を進めることができる」、中学校は「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」といった、協働的に学ぶ場面での効果を実感できています。そのほかにも「画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよくわかる」といったICTならではの学びに良さを感じる子どももいます。香美市では、デジタルとアナログのそれぞれの良さをいかした学習を進めており、自分に合った学び方で学べるよう、端末を活用する場合も、鉛筆やノートと同じように子どもが自分で判断し、必要に応じて活用できることをめざしています。



項目①：友達と協力しながら学習を進めることができる
項目②：画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよくわかる

項目①：友達と考えを共有したり、比べたりしやすくなる
項目②：自分のペースで理解しながら学習を進めることができる

～おわりに～

社会で生きて働く資質・能力を身に付け、児童生徒が学校教育のみならず、大人になってからも、実社会・実生活の中で重要な役割を果たすことができるよう、香美市でも「探究」を軸として、小中学校9年間の学びをつなぐ取組を推進していきます。